



2024年3月19日

各 位

会 社 名 大 幸 薬 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柴 田 高
(コード番号：4574 東証プライム)
問 合 せ 先 経 理 部 長 中 條 亨
(TEL. 06-4391-1123)

上場維持基準への適合に向けた計画について

当社は、基準日（2023年12月31日）時点において、プライム市場における上場維持基準を充たしておらず、下記のとおり、上場維持基準への適合に向けた計画を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況及び計画期間

当社の基準日（2023年12月31日）時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は下表のとおりとなっており、流通株式時価総額について基準に適合していません。当社は流通株式時価総額について、上場維持基準に適合するべく、各種取り組みを進めてまいります。

	株主数	流通株式数	流通株式時価 総額	流通株式比率	1日平均売買 代金
当社の状況 (基準日時点)	16,452人	307,546単位	96億円	60.9%	0.8億円
上場維持基準	800人	20,000単位	100億円	35.0%	0.2億円
計画書に 記載の項目			○		
計画期間			2025年12月末		

- ※1 当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。
- ※2 1日平均売買代金は、2023年1月1日から2023年12月31日における当社の1日平均売買代金について東京証券取引所が算出を行ったものです。

2. 上場維持基準への適合に向けた取り組みの基本方針

当社は、移行基準日（2021年6月30日）時点において、全ての項目がプライム市場の上場維持基準に適合していることを確認した上で、2022年4月にプライム市場へ移行いたしました。

今回、流通株式時価総額がプライム市場の上場維持基準に適合しなかった要因は、コロナ禍以降の感染管理事業の売上の低迷及び赤字の計上による先行きの不透明感による株価低迷と判断しております。そのため、当社は、流通株式時価総額の達成に向けて、「株価の向上」を基本方針として、上場維持基準への適合を目指してまいります。

なお、2024年3月18日時点の株価を基に流通株式時価総額を自社で算出すると、116億円となっております。

3. 上場維持基準への適合に向けた課題と取り組み内容

当社は上記の基本方針に記載したとおり、流通株式時価総額がプライム市場の上場維持基準に適合しなかった要因を株価の低迷であると認識しており、業績の回復と先行きの不透明感払拭を通じた株価向上による時価総額の増大を図ることが重要であると考えております。

そのため、以下の具体的な取り組みを進めてまいります。

(1) 医薬品事業を中心とした業績回復及び2024年12月期の黒字化

当社は2024年2月15日公表の決算説明会資料において「医薬品事業を中心とした収益基盤の構築」「感染管理事業の採算性改善」「経営のスリム化による収益体質の改善」を2024年の経営方針として掲げております。

医薬品事業においては、コロナ禍からの回復による堅調な市場需要を背景に、2023年12月期の実績は対前年43.1%増の51億円となりました。2024年12月期は、シフト生産体制による作業時間拡大や京都工場におけるセイロガン糖衣Aの包装ラインの立ち上げ等を実行フェーズに移していくことで供給体制の強化を図ってまいります。また正露丸シリーズの液体カプセルタイプ「正露丸クイックC」は、10代を中心とした若年層、訪日観光客のほか、外出中の方に向けたマーケティング施策を強化することで引き続き販売拡大を図ってまいります。加えて、出荷価格の見直しによる適正利益の確保等により収益基盤を構築してまいります。

感染管理事業においては、コロナ以降、除菌市場の売上予測が難しい状況が続いていることを踏まえ、信頼回復に向けたエビデンス強化とコストコントロールの強化により採算性を改善させ、業績リスクの最小化を図ってまいります。

経営のスリム化として、2023年12月期において棚卸資産や固定資産の圧縮をおこなうとともに、茨木工場の転貸、オフィスの最適化をおこない収益体質の改善施策を進めてまいりました。

上記を中心とした取り組みを進め、2024年12月期の業績予想は下表のとおり見込んでおり、着実な業績回復及び黒字化を目指してまいります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
2024年12月期予想	6,800	410	360	550	10.97
(ご参考)前期実績 (2023年12月期)	6,120	△1,005	△1,248	△3,611	△76.25

(2) 中期的な成長戦略について

当社は2023年3月1日公表の「第三者割当による行使価額修正条項付第10回新株予約権(行使指定・停止指定条項付)の発行に関するお知らせ」において、今後の成長戦略として主に以下の取り組みを進めていく旨開示しております。

- ① 医薬品事業の供給体制強化
- ② 海外医薬品事業における中華圏での販売強化
- ③ 感染管理事業における特許二酸化塩素製品へのリソース集約と需要の獲得
- ④ 新たな収益の柱としてラップブランドを活用したお腹周りの事業領域拡大

上記の成長戦略を実行するためのエクイティファイナンスは完了していることから、今後上記（１）と合わせて具体的な取り組みを進め、中長期的な業績向上を目指してまいります。

（３） IR 活動の更なる充実

当社は、上記に示した業績回復及び成長可能性について、株式市場の皆様へ積極的にご説明をおこない、より多くの投資家に当社株式の価値を評価してもらえるよう努めてまいります。

また、投資家の関心の高いサステナビリティ等の非財務情報の開示拡充についても、今後強化してまいります。

（４） 株主還元施策

当社グループは、堅実な成長性を維持する事業展開と安定的な経営体力維持のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針とし、連結業績も反映した配当政策としております。2023 年 12 月期は引き続き赤字となったことから無配を予定しておりますが、業績回復の目的が明確になった際には、早期に復配を検討してまいります。

以 上